

女
伏

白秋全集
19

詩文評論
5

白秋全集 19

第七回配本(第1期 一、二、四卷)

一九八五年六月五日 発行

定価三四〇〇円

著 者 北 原 白 秋

発行者 緑 川 亨

〒101 東京都千代田区一ツ橋二丁目
発行所 鐵 岩 波 書 店

電話(三上)六四二二
振替東京六二六四〇

落丁本・乱丁本はお取替いたします

目次

『フレップ・トリップ』

揺れ揺れ帆綱よ	二
海上の饒舌	七
小樽	七
おおい、おおい	八
安別	九
バルブ	二五
真岡	二六
多蘭泊	三三
本斗の一夜	四〇
樺太横断	五五
小沼農場	六三

イワンの家	二四
豊原旧市街	二五
樺太神社	二四
豊原よりの消息	二七
木のお扇子	二九
笛	二五
曇り日のオホーツク海	二七
敷香	二九
海豹島 その一	二九
第一光景	二九
第二光景	二九
第三光景	三〇
海豹島 その二	三〇
ハーレムの王	三二
巻末に	三三

口画目次

津軽海峡にて	四
樺太の路	五
ツンドラ地帯の夏	六
膺納獣とロッペン鳥	七

〔参考〕

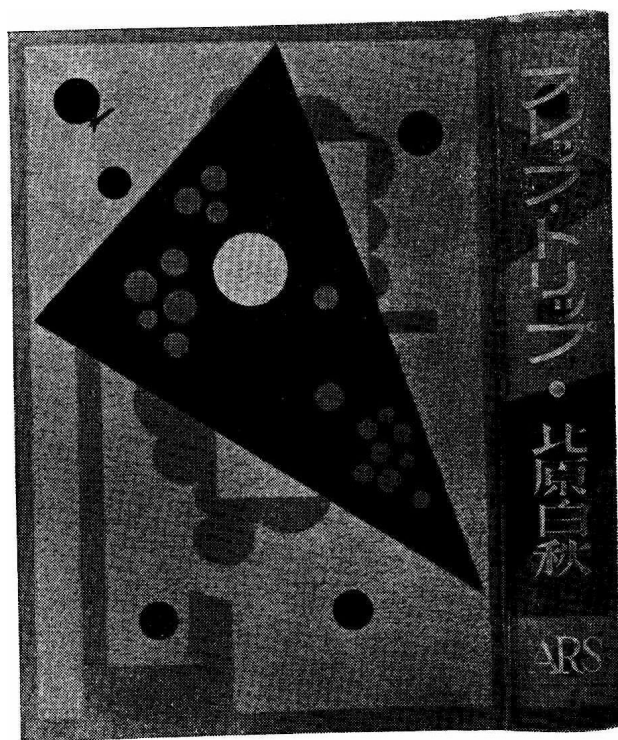
五足の靴	一
------	---

『フレップ・トリップ』の文体	三九
----------------	----

——その躍動美について——

後記	四〇
----	----

『フレップ・トリップ』



〔表紙〕

〔昭和3年2月21日
アルス刊〕

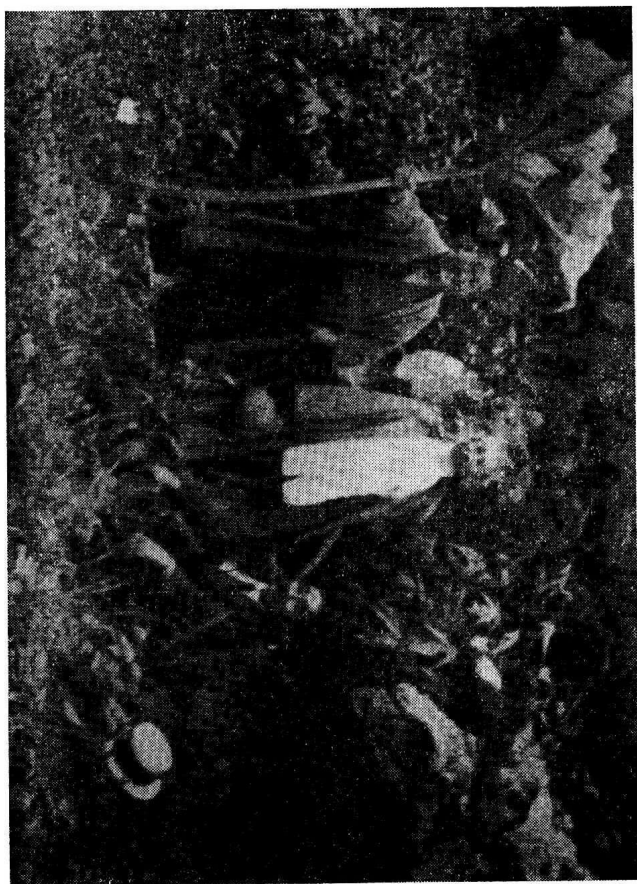


〔本扉〕



津軽海峡にて

樺太の落





ツンドラ地帯の夏



羅賓遜島と海

フ
レ
ッ
プ
・
ト
リ
ッ
プ

フレップの実は赤く、トリップの実は黒い。いづれも樺太のツンドラ地帯に生ずる小灌木の名である。採りて酒を製する。所謂樺太葡萄酒である。

揺れ揺れ帆綱よ

心は安く、気はかろし、

揺れ揺れ、帆綱よ、空高く……

おそらく心からの微笑が私の満面を揺り耀かしてゐたことと思ふ。私は私の背後に太いロップや金具の緩く緩くしめく音を絶えず感じながら、その船首に近い右舷の欄干にゆつたりと両の腕をもたせかけてゐる。

見ろ、組み合せた二つのスリッパまでが踊つてゐる。金文字入りの黒い革緒のスリッパが。

心は安く、気はかろし、

揺れ揺れ、帆綱よ、空高く……

私の今度の航海は必ずしも物の哀れの歌枕でも世の寂寥を追ひ求むる風狂子のそれでもなかつた。ただ